

## 生分解性マルチの効果確認試験

JA幕別町

助川 英樹



①慣行品(6月3日)



②試験品(6月3日)



③左慣行品・右試験品(7月3日)



④左慣行品・右試験品(7月30日)

## 試験目的

生分解性マルチの効果確認

試験作物  
及び品種

南瓜(ケント)

試験資材  
及び数量(規格)きえ太郎Z ※旧商品名:コーンマルチII (0.015mm×135cm×400m)  
株間60cm×60cm 千鳥 60φ 透明 2本

## 慣行資材

サンバイオ(0.018mm×135cm×400m)  
株間50cm×60cm 千鳥 60φ 半透明

## 栽培方法

播種日	収穫日
6月5日	9月20日
【栽植密度】 畝幅: 60cm 株間: 60cm	

## 資材使用期間

5月10日~9月末日

## 試験区面積

5反

## 試験結果

## (1)作業性について(慣行品との比較)

問題なく展張出来た。

展張直後は、慣行品の方が土に密着していた。

## (2)作物の生育状況または、収穫への影響

展張や播種時は乾燥し、気温が高かった。その影響なのか試験区では、発芽ムラが発生したり、初期生育が悪かった。

最終的な収量は大差なかった。

試験圃場は赤土で乾燥しやすい傾向があった。

## (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: コストメリットが出る可能性がある。

【問題点】: 乾燥、高温時の初期生育が悪い。

## (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

耐久性、崩壊性は問題なく、すき込む際もロータリーの爪に引っかかることもなかった。

## (5)促成・抑制効果について

大差なし。

## (6)保温効果について

試験品の方が透明度が高いにもかかわらず初期生育差が出たため、慣行品よりも劣っている可能性がある。

## (7)雑草・病害虫の発生について

雑草抑止効果は大差なし。

## モニター感想

初期生育が悪かったが、最終的な収量は大差なかった。

対照区と比較した乾燥しやすい赤土の圃場とは別で、保湿性のある黒土の圃場でも使用したが発芽ムラの程度は赤土よりも少なかった。

## JA担当者の感想(久田課長)

乾燥、高温条件であったとはいえ、慣行品と比べ保水性もしくは保温性が劣ることにより発芽ムラや初期生育に差が出たと考えられる。

ポット苗を植える産地では問題なく使用出来ていると聞いたが、直播で使用するには課題があるのではないか。

また、生分解性マルチは当用期の追加等も求められるため融通の利く対応が必要。

## 今後の使用について

改良して欲しい。